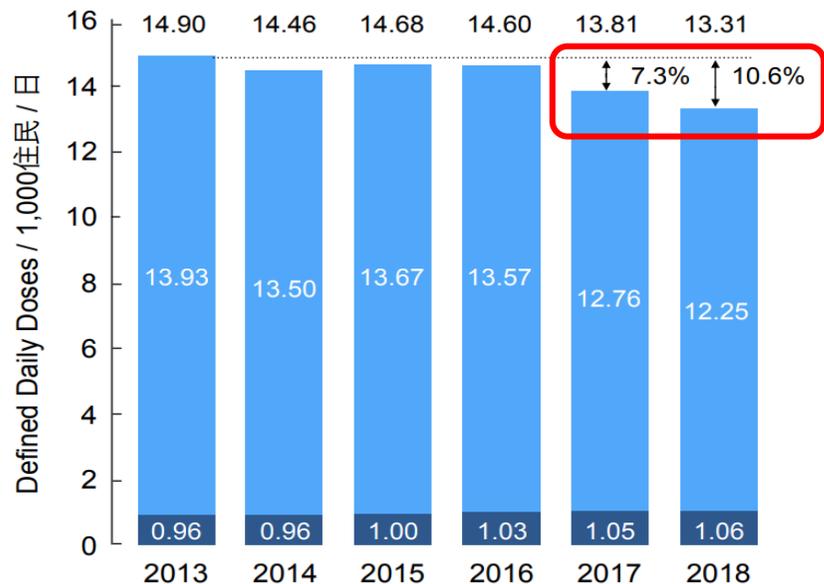


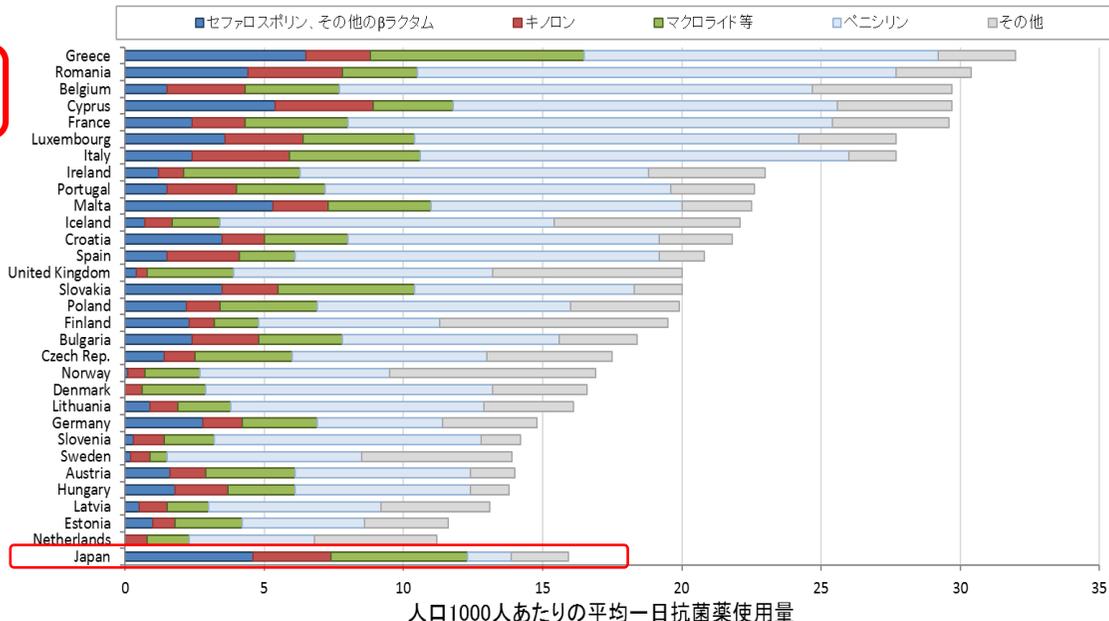
経口抗菌薬の販売量の年次推移・使用抗菌薬の内訳

① 日本で使用される抗菌薬のうち**約90%**は外来診療で処方される**経口**抗菌薬であり、DID（抗菌薬販売量）は減少傾向。

② 日本は、総使用量は多くはないものの、**セファロスポリン、キノロン、マクロライド**の使用割合が**極めて高い**。



AMR臨床リファレンスセンター
全国抗菌薬販売量サーベイランス (DDD2017年版より)



ECDC AMR Surveillance report 2012, Muraki Y et. Infection. 2013; 41: 415-23.
(欧州は2010年、日本は2013年)

※DID(DDD per 1,000 inhabitants per day)
人口や抗菌薬毎の使用量の差を補正するため、抗菌薬の販売量を1000住民・1日あたりDDDで表したもの。
※ DDD (Defined Daily Dose)
WHOによって定められたその抗菌薬が通常1日に使用される量(g)。

近年新規に開発された、広域な細菌に有効な経口抗菌薬である、**セファロスポリン、キノロン、マクロライド***の適正使用による使用量の削減が重要

*セファロスポリンの一部(第3世代セファロスポリン等)、キノロン、マクロライドは、不適切な使用により耐性菌を生成しやすい。